

第8号の発刊によせて

生命健康科学研究所 所長 鈴木 康 夫



中部大学生命健康科学研究所は、中部大学の新しい学問分野を開拓する構想に基づいて2004年6月に設置されました。新しい学問分野とは、人体の生理や生命倫理を加えた生命科学技術分野に該当するもので、健康増進や疾病予防、先端かつ高度な保健看護に関する教育研究体制の確立を目指しています。平たく言えば、本研究所は、“よりよく生きる”の実現に向けて、ヘルスサイエンス領域の安全・安心をモットーに、生命科学に立脚した新しい開発型科学技術の創成を目指しています。具体的には、生活習慣病や新型感染症など、現代の疾病と健康障害を対象にして、予防と治療および看護と介護のための新たな薬物、資材・機器科学技術、医療・看護技術ならびに関連する技術と教育システムの開発に向けた研究を推進しています。それは、社会のニーズに応えることであり、また、ヘルスサイエンス領域の学生教育にも資することを願っています。

2010年4月には、生命健康科学部に、これまでの“生命医科学科”、“保健看護学科”に加えて、新学科であります“理学療法学科”、“作業療法学科”、“臨床工学科”が、さらに2011年4月には、“スポーツ保健医療学科”がオープンしました。これらの学科の研究と教育の理念を具体化かつ支援するために、生命健康科学研究所に「地域医療・障害者支援領域センター」を設立し、2010年に始動いたしました。このセンターが目指すところは春日井市を中心とする地域の医療、福祉機関と連携し、大学の持つ学術的、人的資源を生かし、在宅医療・福祉を支援する総合的方策を研究し、提案することにあります。

また、本研究所では、2008年9月に採択された文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（プロジェクト名：「生活環境因子誘発性疾患の予知・予防に関する戦略的研究」）が稼働しており、上記理念に基づいた研究が進みつつあります。この研究プロジェクト（ヘルスサイエンスヒルズプロジェクト）に関しては、是非、ホームページ（<http://www.isc.chubu.ac.jp/hsh/index.html>）をご覧ください。

当研究所では、研究活動の年度成果を、学内外に広く紹介するとともに、学生教育への一助とするために、内容をわかりやすく、解説的に紀要に掲載することにしております。本年度発刊の第8号には、投稿論文、当研究所で実施致しました萌芽研究の成果を収録いたしました。これに加えて、毎年本学の生物機能開発研究所（鈴木 茂所長）との共催で行っている、中部大学ライフサイエンスフォーラムの講演、さらに最近のトピックスを総説として収録致しました。多くの方々にご一読賜わり、当研究所の活動にご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。